

# 東松島市民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 2 月 14 日掲載)

## (1) 東松島市の被災状況

東松島市の東日本大震災による被害は、現時点において地震・津波による死者が 1,094 名、消息不明者は 29 名となっています。沿岸部からなだらかな平野が続いているため、大津波は市の内陸部にも到達してしまいました。市街地区域の 65%が浸水し、被災地のなかでも最も浸水エリアが広いといわれており、広範囲での被害が出ました。

そういった状況の下、東松島市民児協でも委員1名が犠牲となりました。また、担当地域が壊滅してしまった委員もいることから、「何をどうすべきか」という答えも出ないまま、目の前で起きている事案に対し、自分でできる範囲での支援を心がけ、活動を行なってきました。

## (2) 現在までの様子とこれから

平成 23 年7月から、2か月に1回の割合で定例会を再開し、情報の共有を図るとともに仮設住宅への支援方法を検討しました。しかしながら、活動範囲の広域化と長期化が予想されるため、市や社協と協議し、仮設住宅の全面支援は「東松島市社協生活復興支援センター」で行い、民児協としては協力体制をとるということで合意し、復興に向けての道筋ができたように思われます。

現在は通常の活動に加え、市内に点在しているみなし仮設住宅の入居者への支援を行っていますが、今後の生活への不安のためか、被災者の中でも自立に向けての意識格差が見受けられ、入居している地域でのコミュニティーや将来の予測などを考えると、民生委員・児童委員としてどこまで関わりを持つべきか考えさせられてしまいます。

防災集団移転や災害公営住宅の整備事業も進み、平成 28 年には完成を迎えます。これからの新行政区への対応として、民生委員・児童委員の担当地域の再編成や人材の確保など様々な問題が発生しますが、被災者を支援する一番の目的は、生活再建をめざす住民の支援であることを忘れずに、また、関係機関との連携・協力・支援の体制を強化しながら微力でも被災者に寄り添い、自立に向けた支援を行なうことが心の復興にもつながると信じ、活動を続けていきたいと思っています。

## (3) 人形劇サークル「サンサンサン」の活動について

人形劇サークル「サンサンサン」は、2007 年から5名(主任児童委員3名、民生委員2名)で活動していましたが、大震災によりメンバーも被害に遭い、サークル活動を行なえるような状況にはありませんでした。しかしながら、各地区、施設には有名人やボランティアの方など大勢の皆さんに慰問していただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。

ボランティアの数も少なくなり、震災から半年を過ぎた頃です。メンバーの一人から「サンサンサン」を復活しようと声がかかり、まずは被害の大きかった野蒜(のびる)小学校を訪問してみました。結果は思った以上に反応が大きく、一緒に笑い、歌い、楽しんでいただきました。

それにより自信がつき、学校・保育所・子育てサークル・老人施設・いきいきサロン等、子供たちや高齢者が集まる場所に出向いて公演を行ないました。人形劇が終わると、一緒にお茶をいただきながら育児中の親子の悩みや、高齢者の生活情報などを聞ことができました。また、同じ公演会場に行くときは、内容を変え、新しい人形を作っては練習し、手遊びや脳活性化体操の研修があるときは受講し、常に新鮮な気持ちを忘れずに頑張っているところです。



私たちの人形劇活動が、地域の皆さんの元気の源になり、虐待防止または孤独死防止へとつなげることができるように、これからも努力していきたいと考えています。

#### (4) 終わりに

全国の民生委員・児童委員の皆様から頂いた力強い応援と励ましで前に進むことができたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。